

# 目 次

2013年度事業関係	
事業内容報告	5
1. 事業活動	7
【1】 地域活動／高齢者・障害者・子どもの生活を支援する事業	7
【2】 コーディネート事業・相談活動・ ボランティア支援・当事者支援活動	16
【3】 教育・啓発活動	22
【4】 コミュニティ・メディアにかかる活動	23
【5】 国際的な草の根の交流を行う事業	24
【6】 リサイクルバザー事業	24
2. 組織と運営	25
2014年度事業計画案	28
2013年度決算報告および2014年度予算	33
会 員 関 係	44
* 2014年度役員名簿	
* 2014年度ボランティアグループ運営委員名簿	
* 会員名簿	
寝屋川市民たすけあいの会 会則	47
特定非営利活動法人	
寝屋川市民たすけあいの会 定款	50
寝屋川市民たすけあいの会のあゆみ	61

# 寝屋川市民たすけあいの会

## 2013年度事業内容報告

寝屋川市民たすけあいの会は、1978年5月に設立以来、市民の手により主体的につくられた寝屋川ボランティア・ビューローを拠点として、様々な地域活動を行ってきた。

### 本年度事業報告の概要

#### 〈全体的概要〉

2013年度の全体的な事業計画は4点であった。その4点についての評価は以下の通りである

#### 1. 組織的整備－参加型の組織の再構築と管理部門の強化－

2011～13年度の3年間で組織ガバナンス確立への試行を行ってきた。これは、組織全体が大きくなるに従って無理がでている管理部門について強化していく方向であった。直接援助部門については、ミーティングの見直しを随時行っている。しかし、一方でこの3年間で試行してきた常任委員会などの組織的な取り組みについてはうまくいっていない。また、参加できる仕組みのための市民活動やボランティア活動を進めることのできるための事務局機能の強化に関しては、会全体の今後の方向性ともあいまって、うまくできていない。

#### 2. つながりとネットワークづくり

私たちはこれまで、「つなぐ」ことをミッションに、さまざまなネットワークに参画してきた。また、その中で、一定以上の役割を果たす必要にも迫られている。一見すると、自らの団体の活動を大きくしていくことと、「つなぐ」ことは矛盾するようにも見えるが、これまでのネットワークを大切にし、関係団体との協力の中で、(福祉の)まちづくりにつながることは積極的に参画している。せまい意味の障害者福祉だけではなく広がりを持って行きつつもまた新しい課題がでてきている。

#### 3. 事業の次のステージをめざして－福祉事業拡大プロジェクト

くらし支援プロジェクト……体験宿泊、一人暮らし支援システムの実

施検討については、一定の方向性がみえてきはじめています。1軒の「シェアハウス」の取り組みははじまって、ようやく定着しはじめ、入居されている方の「自宅」として取り組みが行われるようになった。しかし、一方でホームヘルプサービスという制度を使うだけでは、生活が成り立たないこともわかってきている。大上段に構えたい方をすれば、地域生活支援システムを構築する必要がある。また、資金面の課題も大きい。

また、人材の確保を常に行っていかなければならないという課題も大きい。

日中活動ぼちぼちはうすの新体系移行の中で生活介護への移行を予定し、大阪府と事前協議を行った結果、南海トラフに対応するため、「耐震化」が必須であるということで、現在の建物では移行は不可能になった。

#### 4. 相談支援の多様化からそもそもたすけあいの会が取り組んでいた活動へ運動的、開拓的事業活動の必要性の高まりに対応した取組みを。

たすけあいの会のミッションに基づいた制度があるから行うのではなく、お金があるから行うのではなく、地域全体をきちんととらえ、社会情勢も鑑みながら、きちんと運動的、開拓的な事業活動に取り組んでいく。

この方向性については、組織内でのコンセンサスはもちろんのこと、一長一短にできることではない。特に、今年度は資金面の問題もあり、理念と実際に齟齬そごが起きている。

以下は「たすけあいの会」が2013年度に行った事業の内容である。

# 事業内容

## 【1】事業活動

### 【1】地域活動／高齢者・障害者・子どもの生活を支援する事業

#### A ボランティア活動

(1) 在宅ボランティア派遣活動・・・活動なし。依頼はあるがボランティア・コーディネートを休んでいることと、ボランティアがいないので、お断りしている。

支援センターのケースとして、在宅ボランティア活動と類似した活動を行っている。

#### (2) 交流活動・サロン活動・つどい活動

##### ① 外出交流会

1984年度より、在宅の寝たきり老人・障害者・難病患者等とその家族、およびボランティアの交流の場づくりを企画し、年に2度ほど外出している。2013年度は開催することができなかった。

##### ② たすけあいサロン（ミニデイサービス）

たすけあいの会では2000年度6月より、月に1度（第1土曜日）にめぐみデイサービスセンターをお借りして、ミニデイサービス（たすけあいサロン）を開催しはじめた。2001年度8月より場所を「ぼちぼちはうす」に変更し、続けている。毎回6～11名程度の比較的年齢の高い方、中途障害、難病の方が集まっておしゃべりに花をさかせている。

4月	6日（土）	9名	
5月	4日（土）	7名	
6月	8日（土）	8名	
7月	6日（土）	7名	
8月	3日（土）	9名	
9月	7日（土）	9名	
10月	5日（土）	9名	
11月	2日（土）	8名	
12月	7日（土）	9名	
1月	26日（日）	5名	新年会
2月	8日（土）	9名	
3月	29日（土）	7名	

総計 のべ96名

③ 寝屋川さくらんぼの会ミニデイサービス

1998年に寝屋川市で開催した失語症ライブの同窓会を元に、言語障害、失語症を持つ人たちの会「寝屋川さくらんぼの会」が結成された。2001年11月からは、めぐみデイサービスセンターにて言語聴覚士の方の協力を得、月に1度（第3土曜日）にミニデイサービスを行っている。現在は、場所を保健福祉センターに変え、言語聴覚士の専門学校生（大阪医専）のボランティアの協力を得ながら活動を行っている。現在の登録メンバーは3名。ここ5年ほどはメンバーの入れ替わりが激しくなり、メンバーが減少している。

4月20日（土）	参加者1名	家族	名	ボランティア	6名
5月18日（土）	参加者2名	家族	名	ボランティア	8名
6月15日（土）	参加者2名	家族	名	ボランティア	6名
7月20日（土）	参加者3名	家族	名	ボランティア	6名
8月17日（土）	参加者2名	家族	名	ボランティア	7名
9月21日（土）	参加者2名	家族	名	ボランティア	6名
10月19日（土）	参加者2名	家族	名	ボランティア	3名
11月16日（土）	参加者2名	家族	名	ボランティア	6名
12月21日（土）	参加者1名	家族	名	ボランティア	3名
1月18日（土）	参加者2名	家族	名	ボランティア	5名
2月15日（土）	参加者2名	家族	名	ボランティア	2名
3月15日（土）	参加者1名	家族	名	ボランティア	2名

総計 のべ参加者22名 家族0名 ボランティア60名

④ maru◎kuru（まるくる）

古くからの会員さん、ボランティアさんというよりは、近年新しく出会った方（そるどみ、事務局ボラなど）に声をかけ、すだちを使って交流する。13年度は年間4回開催した。

4月6日（土）	嵐のため中止	
6月15日（土）	食事会	参加者4名
8月24日（土）	夕涼み会	参加者4名
10月27日（日）	パンケーキ作り	参加者3名
12月21日（土）	鍋パーティー	参加者3名

(3) 福祉施設などへの訪問ボランティア活動

① 特別養護老人ホーム寝屋川十字の園

1978年より毎月1回（第3火曜日）、市内の特別養護老人ホームを訪問

し、清掃、縫製、お年寄りの話し相手・代筆等の活動を行っている。参加ボランティア3～6名。活動内容は古着の裁断やガーゼ折りなど。

	日	時	活 動 内 容	参加数
1	4/16	10時～12時	古着の裁断。	2名
2	5/21	10時～12時	ガーゼ（小・中）折。古着の裁断	4名
3	6/18	10時～12時	ガーゼ（大・中）シーツの裁断。	5名
4	7/16	10時～12時	ガーゼ（大・中）古着の裁断。	5名
5	9/17	10時～12時	ガーゼ（大・中・小）。	3名
6	10/15	10時～12時	シーツの裁断 フェイスタオル製作。	4名
7	11/19	10時～12時	ガーゼ（大・中・小）古着の裁断。	5名
8	12/17	10時～12時	ガーゼ（大・中）古着の裁断。	4名
9	1/21	10時～12時	古着の裁断。	5名
10	2/18	10時～12時	ガーゼ（大・中）古着の裁断。	4名
11	3/18	10時～12時	新品タオル半分に裁断し縫製 メモ用紙作成	4名

② ケアハウス「ロイヤルライフ・カミダ」

1994年3月より市内のケアハウス「ロイヤルライフ・カミダ」への訪問を開始し、施設の清掃、デイサービスの補助、散歩、買い物の介助などを行っている。主に、木曜日は施設内の清掃、金曜日はデイサービスの補助を行っている。年々、活動は停滞していたが昨年度より、数年前に活動をしていただいていた方に活動を再開していただき、活動自体が再開した。

③ デイサービスセンター輝きのまち（ケアハウス池田）

1996年度の10月より市内のケアハウス「輝きのまち ケアハウス池田」併設のデイサービスセンターへの訪問を開始し、週1回木曜日に特別浴の着脱のお手伝いを行っている。また、1997年度10月より月曜日にもデイサービスのお手伝いを行っている。今年度の活動はなし。

④ 神経系難病者交流会「ひまわり会」への協力

もともと月に1回開かれる大阪府寝屋川保健所主催で開かれていた「ひまわり会」。昨年度から、保健所事業ではなく、自主的な事業となっている。その「ひまわり会」引き続きボランティアとしてお手伝いさせていただいている。

(4) 子どもの遊びの活動

① そるどみ（SOL DE DOMINGO）の開催

障害のある子もない子も、地域の小学生とボランティアと一緒に遊ぶ活動。2013年度の登録メンバーは3名。毎月第1日曜日に「すだち」を拠点に活動を行っている。特別プログラムとして、遠足やお泊りプログラム、また夜ご飯をいっしょに作って食べるという「ロングバージョン」も実施した。毎回、学生や社会人がボランティアとして参加している。

4月	7日(日)	メンバー3名	ボランティア	5名
5月	5日(日)	メンバー1名	ボランティア	6名
6月	2日(日)	メンバー2名	ボランティア	7名
7月	7日(日)	メンバー3名	ボランティア	6名
8月	3日(土)	メンバー3名	ボランティア	8名
	4日(日)	メンバー3名	ボランティア	8名
9月	1日(日)	メンバー3名	ボランティア	6名
10月	6日(日)	メンバー2名	ボランティア	5名
11月	3日(日)	メンバー1名	ボランティア	3名
12月	1日(日)	メンバー3名	ボランティア	7名
1月	5日(日)	メンバー3名	ボランティア	4名
2月	2日(日)	メンバー1名	ボランティア	5名
3月	2日(日)	メンバー2名	ボランティア	4名
総計			ボランティア	のべ66名

★「そるどみ同窓会」を開催(寝屋川市立保健福祉センター多目的ホール)  
9月23日(日) メンバー5名 保護者5名 ボランティア4名



② あそび市の開催

市内在住の小学生と保護者を対象に、市立保健福祉エンター多目的ホールにて単発の遊びのプログラムを行った。そらどみの活動紹介展示も同時に開催した。2013年度は実施せず。

③ こもます (¿Como mas?) の開催

そらどみを卒業した中学生対象のプログラムとして一昨年度開催したが、2013年度は休止。

④ びっくりおもちゃ箱の開催

ボランティアと地域の子どもの遊びのプログラム。一昨年度は夏休み期間に一度開催したが、2013年度は実施せず。

(5) 社会的ひきこもり社会参加支援

① 06, 07年度、府が行っていた社会的ひきこもり社会参加支援グループ事業を実施していた。このモデル事業は府内2カ所で行われ、そのうちの1カ所を受託し実施した。一年半で社会的ひきこもりネットワーク会議からの推薦で7名の方の支援を行った。モデル事業は、2007年度で終了。その後も活動を続けている。

・サロン活動 毎月1回程度。以前、事務局の活動に参加していただいていた方の中にはほかのプログラムに参加していただいている方もおられる。

② 一昨年度より、寝屋川保健所主催で社会的ひきこもり者ネットワーク会議が開催されており、それに参加している。しかし、これも保健所の事業が変わっていくにしたがって、再編が予定されている。

**B 障害者総合支援法に基づく事業**

(1) 社会参加活動センター「ぼちぼちはうす」

障害のある方の豊かな日中活動を行っていただく場として、「ぼちぼちはうす」を2000年10月より開設した。2003年度からは、寝屋川市の基準該当の身体障害者デイサービスとして知的障害の方の相互利用を含めて、運用することになった。

その後、2006年度、障害者自立支援法により存続の危機に直面。2006年3月19日の毎日放送「映像06」でぼちぼちはうすが取材・放送された。放送後、117人の方から288万2100円の寄付をいただき、ぼちぼちはうすの横を新たに借りあげ改装し、「ぼちぼちはうす新館」を開設。障害者自立支援法制度施行後は、2006年度上半期は「障害者デイサービス」として、下半期は「経過的デイサービス」と「重度障害者等包括支援事業の一部」として運営をした。

2007年度より、市の委託事業として旧障害者デイサービスの移行種別であ



る「地域活動支援センターⅡ型（定員15名）」と「重度障害者等包括支援事業の一部」として運営している。

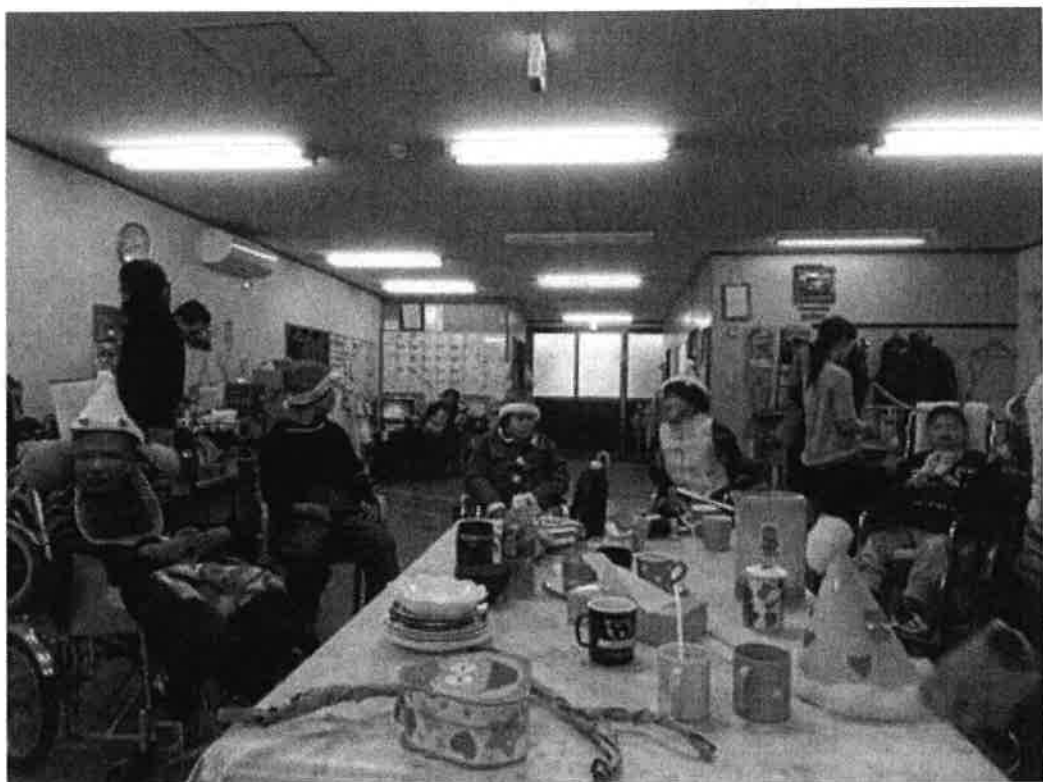
利用時間は9：50～16：10である。重度障害者等包括支援事業の対象の方が6名。地域活動支援センターⅡ型の登録の方が22名（うち、「ゆる・りろ」9名、「風ride(プライド)」2名、「パラデロ」4名、その他2名含）となっている。もともと利用されていた重症心身障害の方、全身性障害の方、知的障害の方に加えて、高次脳機能障害や精神障害、発達障害の方が増えている。昨年度に比べて、利用が増えている。

見学・来訪者は355名、ボランティアはのべ58名であった。

ぼちぼちはうす利用者の障害程度区分について（ゆとりろ除く）

計	6 (重度包括)	6	5	4	3	2	1	未判定
19人	6人	5人	1人	1人	1人	1人		4人
	31.6%	26.3%	5%	5%	5%	5%		21%

区分6 = 57.9%



【ぼちぼちはうす】

② 「ゆと・りろ」(精神障害者ユニット)

精神に障害のある方の日中活動の場として、食事作りや、仲間と集う活動を中心としたプログラム。食事作りでは、メンバー間で献立を考え、買い出しをし、調理等も役割分担している。仲間やボランティアも交えた空間で共に過ごし、一人一人が役割と、自分らしいスタイルが持てる場を目的としている。13年度の登録者数9名。

2013年度は、プログラムでの、のべ利用者は1210人。メンバーのべ1190人。ボランティア・見学者は、のべ10人だった。

<プログラム内容>

ランチ王：献立から買い出し、調理。作ったご飯を食べるプログラム。

キャッチコピーは、「一人ひとりがオーナー兼シェフ」

ランチ皇子：簡単調理で美味しく、楽しく食べるプログラムです。

徒徒の会：ウォーキングを中心とした、体にあまり負担かけずに運動をするプログラムです。

ヨガロマ：女性限定のプログラム。アロマ体験や、ヨガ等のストレッチを行います。

モクジョ会：女性限定のプログラム簡単なお菓子作りやスクラップブックングなど、女子会ならではの取り組みを楽しみます。

情報 PPP：パソコンについてみんなで勉強する場。ブログを使って情報発信もしています。「ゆと・りろブログ」

<http://utoriro.cocolog-nifty.com/>

あまみ党の会：お話をしたり、パソコンや本を見たりと自由に過ごすことができます。

ある日曜日の昼下がり：12時カフェロビーが open。珈琲をのみながらゆっくりと過ごし、13時半から映画鑑賞会。映像を楽しみ、観終わった後は、参加者同士で感想を語りあいます。

<週間プログラム>

開催曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日 (月2回)	日曜日 (月1 最終週)
AM	ランチ王	ランチ皇子		ランチ王	ランチ王	ランチ王	ある日曜日の昼下がり
PM	情報 PPP	徒徒の会		ヨガロマ モクジョ会	あまみ党の会	カフェ	

③ 風ride (プライド)

自立生活支援センターづくりをめざして活動をしている。メンバーは2名。第3日曜日に「語ろう会」を主な活動とし、新しいメンバーあつめをかね、月に1度DVD上映会を開催している。

④ パラデロ

高次脳機能障害の方を主に対象としたプログラム。リハビリ的な要素を取り入れ、紙すきや古切手を使った画づくり、園芸などの作業、あとは個別プログラムとして、音楽プログラムやパソコンを使ったプログラムなどをおこなっている。また、今年度から、メンバーが増えたこともあり、作業療法的な要素を取り入れたプログラムや体操など、ことばの訓練的なものなどを取り入れている。

(2) ヘルパーステーション「ほっと」

① 障害者居宅介護事業

2002年度より、精神障害者の居宅介護等事業をはじめた。2003年度より、身体障害、知的障害児者の制度が支援費制度になり、身体障害、知的障害児者のホームヘルプ(身体介護・家事援助)の事業も開始した。

2006年度は、障害者自立支援法による改正があり、現在は、居宅介護(身体、知的、精神、障害児)、重度訪問介護(全身性障害)、行動援護(知的、精神)、重度障害者等包括支援事業と、市の委託により移動支援事業を行っている。

障害者自立支援法の改正に伴い、同行援護が新設されたが、当会では同行援護は実施していない。

2013年度在宅サービス実績(上段/下段は2012年度)

	利用者数	回数	時間
居宅介護	4人 (5人)	713回 (678回)	2624時間 (2496時間)
重度訪問介護	7人 (6人)	681回 (574回)	5230時間 (4549時間)
行動援護	5人 (5人)	436回 (417回)	1962時間 (1874時間)
移動支援	16人 (17人)	172回 (193回)	1236時間 (1306時間)
重度障害者等包括支援事業	7人 (7人)		14880時間 (15782時間)

※ 法人事業の「ヘルパーステーションほっと」と「ぼちぼちはうす」の苦情解決第三者委員については、追手門学院大学教員の古川隆司さんをお願いしている。

## C 介護保険法に基づく事業

実績なし。休止中。

## D 移送サービス事業

16年前、市内の住民参加型在宅福祉サービスを手がけていた団体が解散することになり、その団体が日本財団から、もらいうけていたリフト付きの軽ワゴン車を譲渡されることになった。以前より、病院などへの車での移送、送迎は在宅ケースとして対応していたが、車の譲渡を機に、リフト付き軽ワゴンの貸出およびこの車を利用した移送ボランティアによる移送を行っていた。

現在は、国のNPO等による移送サービスの制度化が進んだことともない、2005年度半ばに運営協議会の結成後、NPO法人有償移送（いわゆる道路交通法80条適用移送）の申請を行った。しかしながら、積極的に事業を行う姿勢はとっていない。

情報などの収集のために関西STSに参加している。

## E 暮らし支援事業

2010年度、市からの居住サポート立ち上げ支援事業と社会福祉振興助成事業、そして、重度障害者等包括支援事業を活用し、「障害のある方の暮らしを支える」取組みをはじめた。

昨年度は、取組みを整理し、すだちを仮の「(仮称)サポートセンター」として位置づけ、地域の中で暮らしていかれる生活のサポートを行う取組みを考え、実践をはじめた。昨年度より、1カ所、「シェアハウス」=2人暮らし用のマンションを当会で賃貸し、契約し、住んでいただくことをはじめた。

また、障害者自立支援法が改正され、地域定着支援という地域で生活を行うことの支援ができる制度ができたこともあり、相談支援センターとしてもひとり暮らし支援やシェアハウスの支援を行っている。

## 【2】コーディネート事業・相談活動・ボランティア支援・当事者支援活動 A 障害者自立支援法に基づく相談活動

### (1) 寝屋川市障害者相談支援事業の委託運営

2002年度より、寝屋川市より市町村障害者生活支援事業の委託をうけ、寝屋川市民たすけあいの会地域生活支援センターを運営している。制度の改正に伴い、大阪府の指定相談支援事業所となり、また、寝屋川市の委託相談支援事業所にもなっている。2013年度から委託事業の委託内容と事業内容もかわり、委託+基幹相談支援センター機能強化事業という形になった。当センターにもちこまれる相談はとにかく、多問題、支援困難ケースが関係機関から持ち込まれることも多く、訪問対応をすることが多い。

総合相談件数 791件（うち訪問回数372回）

難病者ピアカウンセリング ……毎日+出張相談日 第3水曜日

視覚障害者ピアカウンセリング……毎月第4土曜日

市から依頼され、聴覚障害者ピアカウンセリング…聴覚言語部会の取り組みに補助している

### (2) 基幹相談支援センター機能強化事業の受託運営

#### ・自立支援協議会の運営への協力部分

相談支援機能強化事業の委託を受け、主に、ネットワーク推進員として、寝屋川市障害者地域自立支援協議会の運営に参画している。

#### 【全体会】

自立支援協議会事務局会議（月1回）、

#### 【部会・ワーキング】

就業・生活支援センター実務担当者会議（月1回）、

相談支援ネットワーク会議（月1回）、

精神障害者部会ワーキング（月1回）、

地域活動支援部会（月1回）、

障害児および発達障害プロジェクト

#### 【サブ・ワーキング】

就労移行事業所連絡会議、

精神障害者部会地域移行定着 B、

理解・啓発サブワーキング

\* フェスタ実行委員（「春の寝屋川統合失調症 寄席」開催 2014年3月2日）

・障害者虐待防止センターへの協力

市からの委託をうけ、障害者虐待防止センターのコアメンバーとして、スタッフを一人派遣している。また、それにともない、コアメンバーとして24時間の連絡体制をとっている。

(3) 障害者自立支援法にかかる障害程度区分審査会への審査員としての派遣

障害者総合支援法の介護給付のサービスを受けるにあたり、認定審査をうける必要がある。二次審査として審査会が設置され、その審査員としてスタッフを派遣している。

(4) サービス利用計画策定事業

昨年度から制度が変わり、むこう3年のうちに、すべての障害福祉サービスを利用されている方に、サービス利用計画の策定を行うことになっている。当センターは、引き続き、指定相談支援事業所として、今年度中には、60名の方のサービス利用計画の策定を行っている。一人暮らしの方、高齢の要介護の親御さんと同居の方、退院支援を行った方である。

支援学校高等部卒業時の一時的な計画相談を受けたため、件数としては著しく増加しているが、2013年度の終わりから、その件について、行政との話し合いを行っており、2014年度には、特定相談の事業所に順次、引き継いでいく予定になっている。

(5) 居住サポート事業の受託運営

2011年度、障害があるため一般の住宅への入居やそれに伴う手続き、住宅探しなどに支援が必要な方への支援を行う事業の受託運営を行った。2012年度からは、相談支援事業の中で行うことになったが、5件程度、家探し引っ越しのサポートなどを行っている。

また、2011年度の社会福祉振興助成金によって行った研究事業により、ホームレス状態から家を確保したとき、家族から分離独立したとき、また施設からひとり暮らしになったときなどに、家財道具が一式なく、何もない中で生活をはじめなければならないということが起こることがわかってきている。会員のみなさんや関係者から寄贈いただいた家財道具（冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電気ポットなど）をストックし、必要に応じて、差し上げたり、一時的に貸し出したりしている。また、生活保護を受ける前の敷金の一時的な立て替えも行っている。

こういった取組みを行っている中で、昨年度よりさらに、貧困であったり、

ひきこもり状態で食料を手に入れる術のない方の支援を行うなど、貧困化の課題に直面し、その支援を行っている。

## B 地域ネットワーク活動

### (1) 関係機関会議への出席

#### ① 地域自立支援協議会精神障害者部会への参加

→自立支援協議会精神障害者部会 長会議(2/12 開催)

→理解促進・啓発サブワーキングへの参加→フェスタ実行委員

\*3/2(日)「春の寝屋川統合失調症 寄席」

場所：寝屋川市立総合センター 2階講堂

参加者：170名

参加費：無料

ゲスト：またき亭いっぱい(落語家)

村上貴栄さん(関西医大ディケア・ソーシャルワーカー)

BALBAL クラブ

栄セッコさん(桃山学院大学)



**春の寝屋川**  
**統合失調症 寄席**

日時：平成26年 3月2日(日)  
13時00分(開場) 13時30分(開演)

場所：寝屋川市立総合センター2階講堂  
入場料：**無料!!** (申込不要)

**演目**

第一部  
またき亭いっぱい  
村上貴栄  
BALBAL  
栄セッコ

第二部  
抱いて笑ってほんわか対談  
BALBAL  
栄セッコ

主催 寝屋川市立総合センター 共催 自立支援協議会  
お問い合わせ先 寝屋川市立総合センター 072-824-1181(内線)

→地域移行定着Bサブワーキングへの参加(全4回)

#### ② 社会的ひきこもりネットワーク会議へ参加

③ 高齢介護室のよびかけで行われている認知症の方を地域で支えるネットワーク会議に参加。(2013年度は日程があわず不参加)

## (2) ボランティア関係の会議への出席および参画

### ① ボランティア連絡協議会

寝屋川ボランティアセンターの登録グループの連絡協議会へ参加。ボランティアセンター、他のグループとの相互理解・情報交換を進めた。

### ② 大阪ボランティア協会パートナーシップ団体への登録

## (3) 精神障害者支援機関のネットワークへの参画

### ① 精神障害者地域交流事業「ClubE&T」への協力

大阪府の補助金事業であった「精神障害者地域交流事業」が平成24年度をもって各団体へ出されていた補助金がなくなったため、25年度より寝屋川市独自の精神障害者地域交流事業として「Club E&T」(旧ひなたぼっこの会)を引き続き運営。事務局も引き続き担当し、協力、各交流事業へ参加している。月に1回定例で運営委員会も行われている。

### ● ふれあいの会(当事者が中心にイベントを企画する会議)

1) 会議 開催数:12回 参加数:110名 \*内当事者98人

2) イベント(当事者中心に企画されたイベント)

開催数:4回 参加数:29名 \*内当事者25人

3) チラシ編集会(広報活動。イベント案内やチラシの作成をする)

開催数:12回 参加数:40名 \*内当事者28人

総計28回 のべ179名 (\*うち当事者数151名)

### ● Club E&T 運営委員会

開催数:11回 参加数:45名 \*内当事者0人

### <ClubE&T主催 イベント>

・プチ寝屋川市民講座「統合失調症がもっと身近にやってきた」

日時:2013年11月2日 場所:寝屋川市保健福祉センター5階  
多目的室

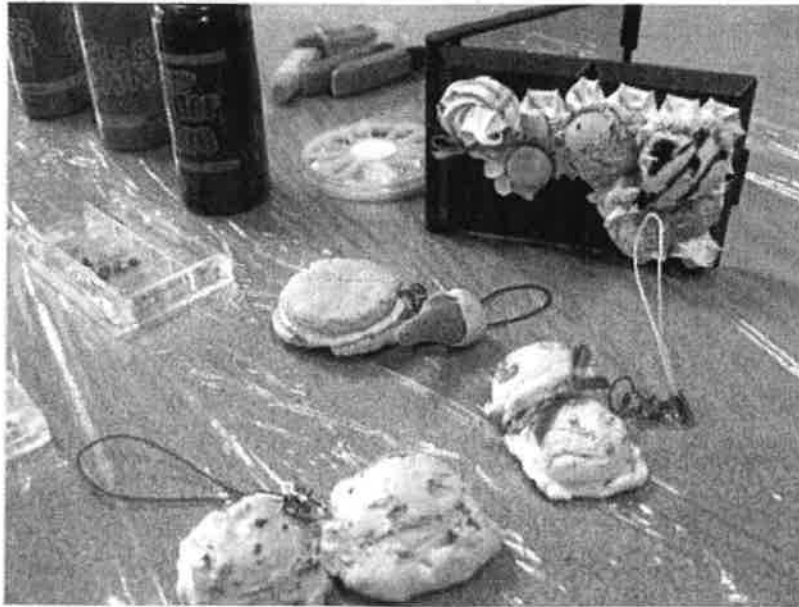
参加数:25名 \*内当事者18名

・みんなで作りませんか?「フェイクスイーツ作り」

日時:2014年3月8日 場所:寝屋川市保健福祉センター5階  
研修室5

参加数:20名 \*内当事者16名





総計2回 のべ45名 (\*うち当事者数34名)

## C ボランティア活動支援事業

### ① ボランティア・サロンの開催

ケース検討会が休止したこともあり、またボランティア同士の交流の機会が減っていることから、ボランティアの活動報告と交流を目的に新しく開始した。

5月、6月、7月、10月の第4水曜日の午後で開催した

4月、6月、8月、10月、12月、2月は、つなぐの発送作業を毎回2日間行った。

## D 当事者団体支援活動

### ▶寝屋川難病連絡会

96年度の5月12日に、市内の難病団体および難病者のための寝屋川難病連絡会の発足総会が行われた。また月1回の運営委員会が行われている。当会はその事務局として、連絡調整、広報、会場・備品の提供などを行っている。

寝屋川難病連絡会第18回総会が11月3日(日)に行われた 9名参加

### ★寝屋川市障害者長期計画策定協議会への当事者委員としての参加

障害者基本法に位置付けられた寝屋川市障害者長期計画の策定協議会に推薦、参画した。

### ★障害者自立支援法にかかる障害程度区分審査会への審査員としての派遣

▶障がい者の自立を考える会「やじろべー」

車いす利用者の6名を中心に自分たちの自立生活を考える会として発足。障害者自立に関することを考えながら、特に余暇的な活動を中心にされている。

E. (特別)「障害者一般就労・職場定着促進支援」

平成24年度、障害者自立支援対策時特例交付金事業費補助金という事業で行われていた障害のある方の就労支援の取り組みを市内3カ所の障害者就労支援事業所とともにいった。

この事業は、就労移行支援事業等の就労系サービスを利用することにより、一般就労をされている障害者について、就労が成功した後の就業生活における支援を実施し、障害者の一般就労・就職後の職場定着に対するさらなる促進を図ることを目的とした事業である。平成24年度は制度として補助金が出て、就労後のフォローアップの一環として、就労移行支援事業において、一般就労した者を対象に勉強会、自主交流会等を実施されていて好評だった。しかし、その事業がわずか一年でなくなり、その取り組みをみんなで継続しようということで、当会から助成をし、3事業所が取り組みを行っている。以下、それぞれの事業所での取り組みである。

① みつわ会 まごころステーション じょぶちゃれ

「アフターカフェ」 10回開催。毎月第2土曜日14～16時 合計65名

内容 近況報告を中心にフリートーク（仕事内容について、仕事のグチや苦労話、やりがい、趣味の話など）

つむぎの会の企画

平成25年度より、毎月、アフターカフェを実施することにした。毎回、平均して、6～7名の就労されている方が参加して、交流する時間を持った。近況報告や自分の趣味の話など雑談が中心で、顔を合わせたことがなかった人たちが知り合いになり、プライベートでもつながりが生まれている様子。

また、つむぎの会（みつわ会の利用者が働くをテーマに交流する会）ではおもに5名の方が中心となって、会の企画、司会、パネルディスカッションの進行をされた。38名参加。

② ワークセンター小路 小路北町作業所

OB・OG会（就職者同窓会） 全6回

1回 7名（2名）「みんなで京都水族館に行ってみよう」

2回 6名（2名）「ユニバーサルスタジオジャパンで楽しもう」

- 3回 11名 (2名) 「カラオケでストレスを発散しよう」
- 4回 13名 (5名) 「バーベキューをしてスタミナをつけよう」
- 5回 12名 (2名) 「ボーリングでストレスを発散しよう」
- 6回 9名 (2名) 日帰り旅行 「ウインナー作り体験と美味しいものを楽しむ」 もくもくファーム

普段外出機会の少ない利用者や外出機会があっても一人で外出することが多いメンバーと一緒に外出する機会を提供する。仕事から離れ、余暇の充実を図る。

仕事をしている人が集まることで、仕事のしんどさなどを話す機会になり、仕事への定着を図る。

就職して相談機会の少なくなった利用者に集まれる機会を提供し、一人で悩みなどを抱えこまないように関係を作っていく。

勤続5年表彰をすることで、お祝いと長く続けていくことの目標設定をみんながもてるようにしていく

### ③ すばる北斗福祉作業所

「就労OB・OG交流会」1回開催。参加者14名。

平成22年度以降の就労者16名のうち、14名が出席し、現利用者と職員をあわせて25名でボーリング大会を行った。

OB・OGの現況確認という点でたいへん効果的だった。これまでに開催した作業所内での茶話会では、参加者も少なく、固定されていましたが、今回のレクリエーションという形式は参加者も多く、交流を楽しめたことは意義があったことだと思います。

## 【3】教育・啓発活動

### A インプロ・パーク

インプロとは英語のインプロヴィゼーション＝「即興」の略。元々は俳優のトレーニングとして開発された即興劇のプログラムで、わが国でも90年代以降、学校教育、企業研修などいろいろな分野でコミュニケーションワークショップとして応用されている。

東京からファシリテーターの鈴木聡之さんをお呼びし、2013年度は1回開催した。

11月10日(日) 参加者 11名

## B ワークショップ等の開催

2013年度は実施せず

## C. 「統合失調症がやってきた～松本ハウスがやってくる～」講演会開催

統合失調症について「知ること、出会うこと、交流すること」を目的に、新たな地域交流の場として、寝屋川ロータリークラブの市民活動支援基金（ニコニコ基金）を得て企画したイベント。当日は、様々なメディアにも掲載されたこともあり（J-COM、毎日新聞、フリーペーパー、福祉新聞 etc）開場前から50m程の列ができるほどの反響ぶり。イベントは、1部「松本ハウス」さんのお笑いライブ、2部「松本ハウス×吉村萬壺の対談～統合失調症の世界に触る～」を開催。松本ハウスさん著書のサイン会も開催。

日 時：9月29日(日)

来場者数： 300名

参加費：無料

会 場：寝屋川市立市民会館（大ホール）

ゲスト：松本ハウス（お笑い芸人）、吉村萬壺（芥川賞作家）



## 【4】コミュニティ・メディアにかかる活動

### A カフェ放送「てれれ」の上映会の開催

大阪市にある映像発信「てれれ」という団体が展開している取り組み。様々な視点で作られた、いろいろなテーマの10分以内の映像作品を1時間のプログラムにして、カフェなどで隔月定期上映されている。その「てれれ」のプログラムを、スタッフやボランティアさんとともに一般にも広く呼びかけ行ってきた。映像を観ることはもちろん、そのあとはお茶を飲みながら映像の感想などを話す時間も大切にしている。

※2013年12月で、カフェ放送「てれれ」の活動が休止となるが、たすけあい

の会で映像を見て語り合う取り組みは引き続き継続していく予定

2013年度は5回開催した。

4月13日(土)	参加者	5名(下之坊さん)
6月8日(土)	参加者	3名
8月10日(土)	参加者	5名
10月13日(土)	参加者	4名
12月14日(土)	参加者	7名(下之坊さん)

★大阪メディアフェス2013に参加(9月21日)

市民による多様なメディア実践活動の交流と発信を目的とした、年に一度のイベント「メディアフェス」が今年は大阪で開催された。プログラムの中のひとつ「つなぐメディアあっちこっち!」で、6つの上映会場で同時にてれれが行われ、当会も「ぼちぼちはうす」が会場とし参加。

参加者 7名

★映像あそびのワークショップ「なにとる(撮る)?ナニみる?」開催

「写真であそぼう」「動画を撮ってみよう」「映像を加工しよう」をテーマに3回シリーズでワークショップを行う。1回目のデジカメを使ったワークショップにはファシリテーターとして、てれれ代表の下之坊さんが来てくださる。

7月28日(日)	参加者	10名
1月19日(日)	参加者	11名
2月8日(土)	参加者	11名

【5】国際的な草の根の交流を行う事業

2013年度は実施せず。

【6】リサイクルバザー事業

A ぼちぼちバザール

毎年、7月に市内の団体に声をかけて、共同で行っているバザー。

日時：7月14日(日) (主催：4団体の参加)

場所：総合センター1階

売上：32,800円 当日のボランティア7名

## B エコフェスタ

寝屋川市主催のエコフェスタに参加。

日 時：11月17日（日） 場 所：打上川治水緑地  
売 上：7,000円 当日のボランティア：5人

## C 東北⇔関西ポジティブ生活文化交流祭2013

日 時：11月23日（日） 場 所：長居公園  
売 上：5,000円 当日のボランティア：2人

## D 親の会バザー

日 時：3月2日（日） 場 所：総合センター  
売 上：5,300円 当日のボランティア：5人

# 【2】組 織 と 運 営

## 【1】会 員

### (1) 会員数＝会費納入者

2014年3月末現在

	個人会員	団体会員	注) 数字のカウントの仕方
12年度までの会員	169名	5名	→2012年度会費納入者数
13年度 加入者	10名	3名	→新規および復活者数
13年度 退会者	25名	0名	→退会および2013年未納入者数
会 員 数	160名	8名	
総 会 員 数	168名		→2013年会費納入者数

### (2) 会員へのサービス

- 1) 会誌「つなぐ」の送付 6回
- 2) ボランティア保険への加入（一部会員のみ、会費より）

## 【2】組織活動（敬称略）

### (1) 定期総会

日 時 2013年5月26日（日） 10:30～12:00  
場 所 ぼちぼちはうす

- 議 題 1) 2012年度法人事業報告  
2) 2012年度法人事業計画・予算計画の審議・承認  
※ポトラック・フォトスライドショー
- 出席者 134名(委任状提出者109名)

## (2) 運営委員会

毎月第1月曜日 14:00～16:00

運営委員：田中哲次郎、別所訓子、西尾美津子、森川加代、村井謙太、  
守本友美

主な議事 事業の企画と調整

## (3) 理事会

たすけあいの会の運営委員会時に開催。

1. 日 時：2012年4月2日(月) 13:30～14:00 森川・村井・富田理事  
議 題：①今年度の計画について  
②新規採用職員について
2. 日 時：2013年3月21日(木) 18:30～20:00 森川・村井・富田・守本  
理事  
議 題：①日中活動の新体系移行について  
②暮らし支援の次の段階  
③相談支援について  
④役員人事について(2年任期改選)  
⑤来年度の予算について

## (4) 理事総会(社員総会)

5月23日(火) 外部理事、監事の4名とスタッフにて、法人の社員総会の  
位置づけで開催。

理 事：森川・村井・守本・富田理事

外部理事：石井祐理子(光華女子大学教員)

安原 佳子(桃山学院大学教員)

川口 裕之(NPO法人キッズポケット、てづくりほいく研究会)

外部監事：玉木幸則(西宮市総合相談支援センター)

## (5) 常任委員会

(6) 福祉事業部ミーティング

今年度は開催されず

(7) 職 員

2013年度の常勤職員。

村井謙太、冨田昌吾、中務飛鳥、福井美奈子、西岡寛信、藤本祥平、大村静香、山田久美子、大島亜弓、山野仁美、野畑大幸、原岡由維、中村真人、三国洋子、重村大介、有馬綾花、春日紀衣、平野夕貴、橋本詩織、中村駿、織田沙友来

(8) 福祉事業を考える会（仮称）

開催されず

**【3】広報活動・寄付を求める活動**

(1) 会誌「つなぐ」の発行 6回

\* B 5 版、手書き、12ページ～16ページ 650部（隔月刊）

★身体障害者刊行物協会の出版として第3種郵便物として発行

(2) ホームページの公開

<http://neyagawatasukeai.org> 今年度から独自ドメインを取得した。

Twitter、Facebook の活用をはじめた

(3) イオンの行っているイエローレシートキャンペーンに参加した。

(4) リサイクル・インクカートリッジ事業に取り組んでいる。